

## 令和7年度秋田県放課後児童支援員等認定資格研修 研修レポート抜粋

(誤字脱字等については校正しているため、原文と異なる場合があります。)

### <県南会場>

#### 科目 ⑩障がいのあるこどもの育成支援

- ◆ 自分の子どもたちへの支援を見直す機会となった。子どもの表情や言葉など、子どもの姿を見ることから、何で困っているのか、なぜ取り組みにくいのかを、その場に応じて適切な対応を心掛けていき、気持ちよく過ごせる環境作りが大切だと感じている。子どもを理解することで、信頼関係を築くことにつながり、様々な相互作用が生じることを学び、これからも子どもをよく見ることを大切にしていきたい。
- ◆ 育成支援では、より具体的な支援の仕方を学びました。まず環境を整えること、目で見て分かりやすくしたり、枠組みを作っておくことでパニックを起こりにくくしたりすることや、ほめ方のポイントもとても参考になりました。周囲の子どもに不公平感を抱かせないための対応の仕方も難しい点なので、なるべく寄り添ってあげたいと感じました。最後に自分の気持ちに余白をもつ、という言葉을忘れずに支援できればいいと思いました。
- ◆ 障がいのある子どもへの支援は、子どもの願いを理解し取り組みやすい環境を整えることであり、その具体的な支援を学んだ。その中で、ほめることによって自信につながり信頼関係の築きとなるほめ方のポイントも教えていただいたので、すべての子どもたちに通じる内容であり早速実行したい。保護者との連携について、保護者は傾聴、共感してくれる人に心を開き、それが信頼関係に結び付く。保護者と一緒に子どもの成長を喜び合える関係でありたい。
- ◆ 障がいのある子どもたちを支援するうえで大切なのは、見えている行動に着目するのではなく、見えない要因に着目し対策することが支援につながることを、冰山モデルを通して学びました。障がいのある子どもの症状は多種多様で必要な支援も様々です。一人ひとりの個性、能力、希望に合わせた環境や関わりを考えていくことが大切である。上手なほめ方～三つのルール～は、大変参考になりました。すぐ実践していきます。
- ◆ 発達障がいは周りからなかなか理解されず、本人はもちろん、保護者もストレスを抱えていると思います。支援員はその子どもの困り感に寄り添い、見通しをもてるように環境を整えて過ごしやすくし、できたらほめて自信につなげ、自己肯定感が高まるように援助していくことが大切であると改めて確認できました。また、保護者の話を聴いてあげて、悩みを共感しながら子どもの成長と一緒に喜び合えることができるよう努めていきたいです。